

SalesforceのURL

注：この記事は、Salesforce ClassicのURLにのみ適用されます。Salesforce LightningのURLの詳細については、[この記事](#)を参照してください。

Salesforceのルールは、Walk-Thrusのセグメンテーション、または目標内にルールを作成するために、一般的にURLルールタイプまたは変数に基づいています。ターゲットURLとユーザー変数を使用して、タブ、ページ、フォームのステータスまたはユーザーのロールに基づいてWalkMeのコンテンツがどこで誰に表示されるかをカスタマイズできます。

概要

SalesforceのURLは、セグメンテーションやWalk-Thruの特定の条件において使用されます。URLは、ルールを処理する時間が画面上エレメントより短いにもかかわらず、特定のタブ（商談）、ページ（メインページ、ビュー、またはレコード）、またはフォームのステータス（新規レコード、レコードの編集、フォームエラー）の特定においては画面上エレメントと同じくらい効果的であるため、画面上エレメントより優れています。特定のURLの組み合わせを使用して、さまざまなタイプのページの中央から始まる、または画面上にエラーが表示される場合のエラー防止への「ステップにジャンプ」を設定できます。

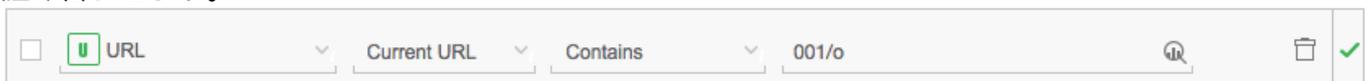
使用方法

ドメインの後のSalesforceのURLの最初の要素はタブURLです。最初の3桁は、デフォルトでSalesforceが異なるタブを表します。カスタムオブジェクトには、一貫したタブURLがない可能性があります。各ページタイプは、メインページ（最近のレコードのリスト）または個別のレコードでさらに詳細に分割できます。レコード内では、フォームがアクティブに編集されているか（編集または新しいレコード）かどうか、フォームにエラーがあるかどうかを指定できます。

Walk-Thrus

Walk-Thrus内では、「ステップにジャンプ」においてURLを使用するのが一般的です。URLを使用して、中央およびエラー防止からWalk-Thruを起動できます。中央からWalk-Thruを開始するには、ページ識別子を組み合わせるタブURLを使用します。

上記のルールは、ユーザーがアカウントのメインページにいる場合に先にスキップする「ステップにジャンプ」をトリガーします。エラーが画面上にあるかどうかを識別するには、タブURLとエラー識別子を組み合わせます。



The screenshot shows a configuration bar for a rule. It starts with a checkbox, followed by a dropdown menu with a green 'U' icon and the text 'URL'. To the right is another dropdown menu with the text 'Current URL'. Further right is a dropdown menu with the text 'Contains'. To the right of that is a text input field containing '001/o'. On the far right, there are three icons: a magnifying glass, a trash can, and a checkmark.

このルールは、新しいレコードの作成中にエラーが発生した場合、前のステップに戻る「ステップにジャンプ」をトリガーします。

U URL

Launchers

Launchersは、URLセグメンテーションを必要とすることが多くなっています。Salesforceのすべてのページで再生しようとしてもパフォーマンスに影響しないようにするために、場所に基づくLauncherのセグメンテーションが重要です。URLによってLauncherをセグメント化する際は、Launcherが配置されているタブとページを具体的に把握してください。以下のルールは、Launcherの外観を新しいアカウントレコードに限定します。

U URL

Goals (ゴール)

プロセスが完了したかどうかを確認するためにURLはクリックイベントと組み合わせて使用されます。[保存]ボタンなどSalesforce内の多くのエレメントは非常に似ています。目標内のルールの一部としてSalesforceのURLを追加することで、特定のページ上の[保存]ボタンをターゲットにし、プロセスが正しく完了したかどうかを正確に測定できます。

U URL

and or

SE On Screen Element

また、ユーザーにエラーメッセージが表示される回数を測定することもできます。エラーが表示される頻度を追跡する目標を作成できます。

U URL

セグメンテーション

URLは、特定のアイテムの表示場所を制限するためにセグメンテーションで使用されることが一般的です。Launcherが[商談]タブに固有の場合、Launcherが正しいタブとページにのみ表示されるようにセグメントを作成する必要があります。上記のLauncherは、新しい商談のレコードにのみ表示されます。

U URL

頻繁に使用されるURL

タブ	URL
----	-----

アカウント	001
連絡先	003
リード	00Q
ケース	500
レポート	000
商談	006
ページ	URL
メイン	001/o 001/fcf=
新しいレコード	/e?
新しいレコードのエラー	/e
レコードの編集	/*e?
既存のレコードの編集	*/001